

事業評価シート（平成24年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	介助員派遣事業		
事業担当	学校教育部 子ども教育相談センター		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'04	4 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、保護者	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
障がいのある子どもたちが、学習活動や日常生活での支援を受け、学校（園）生活を円滑に送っています。		障がいのある子どもたちが学校（園）生活を円滑に送れるようにするため、学習活動や日常生活を支援する介助員を派遣します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	介助員派遣人数				単位	人
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標	57	70	71	72		
	実績	56	70	72			
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	介助員に係る学校評価				単位	点
	説明・算定式	「派遣により、支援を必要とする児童生徒への対応に効果があった」とする評価(5段階)の派遣している小中学校の回答の平均値					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標	4.4	4.4	4.4	4.6		
	実績	4.6	4.6	4.6			
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
進捗状況	①：予定どおり						
	遅れている理由						
平成24年度の主な取組と成果							
介助員の派遣により、障がいのある子どもたちが学校生活を送れるようにきめ細かな支援を行いました。							
平成24年度の検証結果	A：成果があがった						

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	障がいの多様化、重度化する中で、きめ細かな支援が必要であり、保護者、学校からの要望も強くあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続して派遣することにより、きめ細かな支援が実現できます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	教員の追加配置が難しい状況の中、きめ細かな支援ができるように学校を支えることが求められています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	子どもの状態や学級の状況等を考慮し、より有効な活用に努めます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		障がいのある子どもたちへの支援のため、子どもの状態や学級の状況等を考慮し、介助員の適正な配置が必要です。		

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
事業内容		特別支援学級介助員の派遣	特別支援学級介助員の派遣	特別支援学級介助員の派遣	特別支援学級介助員の派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	50,692	44,538	44,299	51,087
事業費 (A)		50,692	44,538	44,299	51,087
執行率 (%)		99.74	88.41	93.95	
内訳	職員 (人)	0.70	0.70	0.75	0.65
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,782	5,673	6,012	5,167
フルコスト (A+B)		56,474	50,211	50,311	56,254

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成26年度の取組方針	障がいのある子どもたちが学校(園)生活を円滑に送れるよう介助員を派遣し、きめ細かい支援を提供します。
課長コメント	障がいのある子どもたちには、個々の状態に応じた特別な教育的配慮が必要です。そうした子どもたちが安心して安全な学校生活を送るためには、学習活動や日常生活動作を支援する介助員の派遣がとても重要で、学校現場や保護者からもその成果に高い評価を得ています。障がいのある子どもたちの学校(園)生活を支えるためさらに事業を充実していくことが必要と考えます。